

# 事業計画書

2024年度

自 2024年 1月 1日

至 2024年12月31日

公益財団法人 岩谷直治記念財団



2023年11月13日

公益財団法人 岩谷直治記念財団  
理事長 小村 武

## 事業計画の概要

(2024年1月1日～12月31日)

当財団は、科学技術に関する研究開発ならびに国際交流推進のための助成、奨励などを通して国民生活の向上と国際的相互理解の促進に寄与することを目的に設立されました。2023年12月で50年になります。

これまで地道な活動ではありましたが、2022年度までの累計で、岩谷科学技術研究助成は1,094件 21億9,147万円、岩谷直治記念賞は47件 1億1,000万円、岩谷国際留学生奨学助成は498名 9億4,704万円に達しています。

2024年度は、従来の岩谷科学技術研究助成、岩谷直治記念賞の表彰および岩谷国際留学生奨学助成に注力するとともに、財団設立50周年記念事業である岩谷科学技術特別研究助成、岩谷直治記念賞（中小企業対象）、岩谷国際奨学生「友の会 世界大会」に加え、岩谷日本人大学院生奨学助成に注力し、これまで積み重ねた業績をさらに伸ばす中で、科学技術の一層の発展を図り、もって国民生活の向上および国際的な相互理解の促進に微力ながら寄与してまいります。

収支につきましては、収支相償を念頭に、それぞれの事業について積極的に業容の充実を図るとともに、均衡の取れた事業運営を行ってまいります。

事業各項についての概要は次のとおりです。

### I 岩谷科学技術研究助成

助成対象はこれまでどおり、「エネルギー及び環境」を中心とした関連研究分野における、独創的な研究とします。また、そのための新たなシステム開発や創発的基礎研究を含みます。

助成の成果については、研究成果発表会を開催し研究成果について発表いただくとともに、ホームページ及び研究報告書にて公表します。

予算金額は1億5,000万円（200万円/件×75件程度）とします。

## II 岩谷科学技術特別研究助成（設立50周年記念事業）

設立50周年記念事業として、2023年度と2024年度に募集を行います。

助成対象は、「エネルギー及び環境」のうち、当財団が指定するテーマの研究分野とし、研究期間は3年間を基本とします。

3年間合計の助成金額 1億5,000万円（1,000万円/件×15件程度）のうち、2024年度の予算金額は7,500万円とします。

## III 岩谷直治記念賞

### （1）一般対象

本賞の対象分野は、「エネルギー及び環境」の分野における優れた技術開発で、斯界において既に顕著な産業上の実績を有し、今後も広く波及効果が期待され、社会的貢献度の高いことが望まれます。

2件以内の表彰を予定し、賞の内容は1件につき、賞状、賞牌および副賞500万円とします。

予算金額は1,000万円（500万円/件×2件以内）とします。

### （2）中小企業対象（設立50周年記念事業）

設立50周年記念事業として、2023年度と2024年度に募集を行います。

上記の一般対象とは別に、対象を中小企業に限定した2件以内の表彰を予定し、賞の内容は上記と同様とします。

予算金額は1,000万円（500万円/件×2件以内）とします。

## IV 岩谷奨学助成

### （1）岩谷国際留学生奨学助成

助成の対象者は、東アジア、東南アジアから来日して日本の大学の大学院に在籍、または入学が決定している私費留学生であって、自然科学系の分野を専攻している者とします。

#### ① 奨学金

採用人数は20名程度、支給金額は月額1人15万円、支給期間は最長2年間とし、特定の国や地域、特定の大学に偏ることなく幅広く採用するよう配慮します。

なお、2023年度奨学生19名、2022年度奨学生9名に対し、奨学金の支給を予定しています。

予算金額は5,580万円とします。

## ② 学会参加費

自己の研究発表のために出席する国内外の学会への参加費を補助するために支給します。支給は、1名につき奨学期間中に1回とします。(学会参加費：学会登録料、旅費など) 予算金額は100万円とします。

## (2) 岩谷日本人大学院生奨学助成

2024年度より助成を開始します。

助成の対象者は、日本国籍を有し日本の大学の大学院に在籍、または入学が決定している自然科学系の分野を専攻している者とします。

### ① 奨学金

採用人数は5～10名程度、支給金額は月額1人15万円、支給期間は最長2年間とし、特定の大学に偏ることなく幅広く採用するよう配慮します。

予算金額は1,350万円とします。

### ② 学会参加費

自己の研究発表のために出席する国内外の学会への参加費を補助するために支給します。支給は、1名につき奨学期間中に1回とします。(学会参加費：学会登録料、旅費など) 予算金額は50万円とします。

## (3) 奨学生例会

例会は、奨学生に、日本の歴史や文化を学び、また、相互に親睦を図り国際交流に努めていただくために、研修旅行を含め年5回開催します。

上記内容には、例会開催のための旅費交通費、博物館・美術館などへの入館料、日本庭園への入園料などが含まれます。

予算金額は895万円とします。

## (4) 奨学生OB・OGとの交流会「友の会」(設立50周年記念事業)

学位取得後日本に残り産学官で活躍している奨学生OB・OGや、帰国して母国のために尽力している奨学生OB・OGなどとの交流、および情報交換を図り、国際交流の促進に努めます。

2024年度は、設立50周年記念事業として、すべての奨学生OB・OGを対象とした友の会世界大会を開催し、予算金額は3,000万円とします。

## V 情報活動

当財団の活動状況や成果を広く公表し、設立者の思いを宣します。

### (1) 財団機関誌「needs」及び「研究報告書」等の刊行

予算金額は530万円とします。

- (イ) 「needs」は、各地の大学、図書館、他財団、当財団関係者及び奨学生、奨学生OB・OGに送付
- (ロ) 「研究報告書」は、研究助成金を受領した先生方のほか各地の大学、図書館、他財団及び当財団関係者に送付

### (2) インターネット等による情報開示

予算金額は464万円とします。

- (イ) 事業計画書・収支予算書
- (ロ) 事業報告書・計算書類
- (ハ) 各種要項（記念賞、研究助成、奨学助成）
- (ニ) 研究報告書

なお、岩谷科学技術研究助成、岩谷直治記念賞及び岩谷奨学助成の3事業の専用ページを活用して、交流と業務の効率化を図ります。

## VI 収支

当財団の主たる収入源は、岩谷産業株式会社の保有株式（基本財産）に対する配当金ですが、2024年度は1株あたり95円の配当を予想しています。

経常収支については、収支相償を念頭に置き、公益目的事業会計で中・長期的に剰余金が発生することがないように、岩谷科学技術研究助成、岩谷直治記念賞の表彰及び岩谷奨学助成の3つの事業について、より積極的な推進を図ります。

なお、設立50周年記念事業を行うにあたり、特定費用準備資金として積み立てた金額のうち、1億円を取り崩して充当します。

以上